

平成30年 東北大学後期日程試験【数学】問題分析

1 今年（H30）の傾向

総評・講評（大問毎に）

理 系

1 (数列・極限)

格子点の数を数列の和として表せるかがポイント

2 (三角関数)

誘導に沿って解けば易しい

3 (確率)

板の状態が、出た目の順によらないことに注意
偶奇に着目すれば展望が開ける

4 (数列)

2種類の漸化式が交互に適用される数列について
2式を組み合わせて偶数項、奇数項のみの漸化式を作る

5 (ベクトル)

G が重心であることを理解した上で計算を進めるとよい
(2)は G を始点に考えるといくつかの項の和が0になることに注意

6 (積分法・極限) (1)の不等式の形から挟む関数を推測する

(3)は $\{a_n\}$ の漸化式を解こうとすると行き詰まる

総 評

基礎的な問題が多く、それらは確実に点を取りたい

ベクトルは計算だけでなく図形的な意味も考える必要がある

上位は 3(3)と 6で差がっくと思われた

2 合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（%）予想

理学部	70 %
-----	------

3 来年受験する生徒へのアドバイス

基礎をしっかりと固め典型問題をこなしておこう、
設問の誘導に従えばさほど難しくはないものが多い
確率は正確かつ素早い数え上げ、場合分けが求められるので
日頃から練習しておこう